

第3号

与謝野晶子通信

潮の遠鳴り



文化学院蔵

副会長就任挨拶

与謝野晶子倶楽部副会長 小西 美根子
夏まつりよき帯むすび舞姫に似しやを
思ふ日のうれしきよ



私が短歌という
ものに初めて出
合ったのは小学
校三年の時。少
女雑誌の付録の便
箋の表紙に舞妓さん

が描かれており、その絵に添えられていたのがこの歌で、奇しくもそれは晶子の歌でした。もちろん意味もよくわからず覚えてしまったのですが、私は短歌と晶子に同時に出会ったわけで、これが現在に至る私の短歌人生と晶子心酔の原点と言えます。

与謝野晶子倶楽部創設時には早速入会し、その後運営委員として微力ながら活動に協力してまいりましたが、この度、思いがけなく副会長の任に就くことになりました。

言うまでもなく、晶子の生き方や業績をもっと広く知っていただくための情報発信や顕彰活動を、太田登会長のもと、皆様と共に進めていきたいと心より願っております。どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

与謝野晶子倶楽部紹介

与謝野晶子倶楽部は全国の晶子研究者や歌人、愛好者などで、平成9年に堺市で創設されました。堺に生まれた与謝野晶子の業績、生き方について広く市内外に発信し、与謝野晶子の顕彰事業を行っています。さかい利晶の杜を中心に、晶子フォーラムや晶子入門講座、短歌セミナーなど分かりやすい講座を開催していますので、ぜひお気軽にご参加ください。

倶楽部からのお知らせ

- ・投稿していただいた方に、抽選で晶子グッズをプレゼントします。
- ・晶子グッズ、関連書籍の販売、倶楽部入会のご案内一筆箋などの晶子グッズ、機関誌、歌碑巡りなどの書籍の販売をしております。商品詳細はホームページをご覧ください。倶楽部ご入会につきましては、事務局までお問合せください。



倶楽部グッズ紹介

「与謝野寛・晶子の末娘が紡ぐ父母の想い出」

森 藤子著 2018年発行
六女藤子さんが語る、父寛・母晶子の姿。今年度の倶楽部事業テーマである、関東大震災当時の様子や、貴重な家族写真もあり必見の一冊です。在庫稀少です。

「堺市内版 与謝野晶子歌碑・文学碑めぐり」

堺市内にある歌碑・文学碑27基の最新情報を掲載
2023年3月発行



●新刊情報

「啄木我を愛する歌-発想と表現-」

太田 登著
「一握の砂」の鑑賞・評訳を新たな視座で再検討!



事務局だより

おめでとうございます！

当倶楽部たつみ都志副会長が、令和4年度「兵庫県文化賞」を受賞されました。長年にわたる谷崎関係建造物の保存運動に加えて、倶楽部にも尽力くださるたつみ副会長。倶楽部運営においても常に新しい発言で倶楽部を引っ張ってくださる大きな存在です。

谷崎研究を始めて、そろそろ半世紀。最初は谷崎文学の女性像に興味を抱いたのです。だって谷崎作品の女に自分を重ねたら、めちゃくちゃ気持ちいいでしょう。男が崇めてくれるわけですから(笑) そのうち、関西在住の研究者として、もっと大事なことがある、と気づいたのです。そう！谷崎文学と家の関係です。以来ずっとそのことに研究者人生を賭けてきました。谷崎の関西での住居40数ヶ所の中でも、特に3つの家を後世に残したい、と。今回そのことが評価されたことが何より嬉しかったです。2つは確実に残せた。でも阪神淡路大震災で全壊した鎖瀬閣の復元があと一歩のところで妨げられて15年。今はせめて資料だけでも後世に残そうと余生をかけています。



授賞式の様子

編集後記

第3号になる晶子通信にも、たくさんのご投稿ありがとうございました。皆様の心の中に在る「晶子物語」を全国の晶子ファンへ共有していただけたことに感謝いたします。

問合せ先

与謝野晶子倶楽部事務局 〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3番1号堺市文化課内
TEL:072-228-7143 FAX:072-228-8174 MAIL:info@yosanoakiko-club.com HP:http://www.yosanoakiko-club.com

与謝野晶子通信 第3号 編集・発行：与謝野晶子倶楽部 運営委員会



3 さかい与謝野晶子青春の短歌大会

第3回大会には、令和4年6月1日～9月9日の間に、全国の高校から過去最多となる11901首の応募がありました。堺歌人クラブ小西美根子氏、勺禰子氏による1次選考、今野寿美氏による2次選考により、入賞12名、入選77名が選ばれました。

表彰式・選評会・講演会

○表彰式

大賞受賞の関西大倉高等学校登川千鈴さんをはじめ入賞者等6名の出席があり、そのご家族・関係者が見守るなか、表彰式が執り行なわれました。



○選評会・講演会

選評会では、選者の今野寿美氏から、受賞作一首ごとに丁寧な選評があり、また講演会では、「いま読む『君死にたまふことなかれ』」をテーマに晶子が貫いた平和への想いをお話くださいました。



▲今野寿美氏 小西美根子氏 勺禰子氏

受賞作品の一部を紹介します。
大賞
君くれた手紙に書かれた文字心友
誤字じやないって感じたあの日

与謝野晶子倶楽部賞
桃の身を傷つけるよう剥く友の
心はきつと荒野のようだ

堺歌人クラブ賞
授業中サボって屋上行っていた
そんな話は漫画の中だけ

さかい利晶の杜賞
騒ぐ血を河内音頭に乘せまして
祖父母と踊る高一の夏

堺市長賞
笑う君コロイド実験大失敗
半透膜は僕と君の距離

堺市教育長賞
真っ白なキャンバスに描く下書きを
未来の僕はほみ出せるのか

大阪府立泉陽高等学校賞
褒められて素直になれずはぐらかす
褒められてるのに胸が苦しい

選者賞
ラブレター想いは便箋五枚分常用
漢字は約2000文字

最優秀校賞：関西大倉高等学校
その他の、入賞・入選作品は選歌集（ホームページで公開）に掲載しています。

与謝野晶子倶楽部事業紹介

文学踏査

令和4年10月21日(金)

鉄幹の知られざる少年時代を辿る『堺・大和川・遠里小野』

萩原久実子

行程

南海高野線我孫子前(集合・出発)↓安養寺参拝↓松岸寺参拝↓
安立商店街・嶋屋喜兵衛商店(昼食)↓祐貞寺参拝↓河井醉茗生
家跡地・水野鍛錬所↓覚応寺参拝↓さかい利晶の杜(解散)

昨年の与謝野鉄幹が少年時代の三年間をすごした青春の日々を辿るツアーが好評であったため、今年は昨年の反省点なども踏まえ、より充実した内容に改善しての開催となった。
寛(鉄幹)が養子に入った遠里小野の安養寺、この安養寺に寛を斡旋した恵晃師が住職を務めていた粉浜の松岸寺、寛が学習のために通った祐貞寺、寛の生涯の親友となった河野鉄南とともに学んだ寛応寺を中心に巡った。普段は非公開のお寺を特別に拝観させていただき、祐貞寺では住職さんによる寛に関する貴重な講話を拝聴できた。また、こちらに伝わる鉄幹の兄・赤松照瞳の舅にあたる赤松連城自筆の書なども特別に見せてくださった。これら寛ゆかりのお寺を実際に徒歩と電車で巡ることで、距離感や風景など寛が体感したであろう記憶を追体験できたような気がした。

昼食には安立の町家レストランで美味しいイタリアンをいただくながら、参加者同士での交流を楽しんだ。阪堺電車で大和川を渡り、鉄幹と晶子の縁をつないだ河井醉茗生家跡を通って、晶子歌碑のある水野鍛錬所を見学させていただいた。

最後はさかい利晶の杜で学芸員の方による晶子の少女時代のお話を伺った。

参加者の皆さんにも概ね好評で、「地元なのに知らなかった」「鉄幹が身近に感じられた」などの嬉しいお声をいただいて、企画者(企画・普及部会員)としても満足できたツアーとなった。



晶子入門講座

会場・さかい利晶の杜

当倶楽部の運営委員でもある3人の講師による「晶子入門講座(全3回)」。晶子の作品や、その生き方を学び新たな晶子の魅力に触れる講座です。

■第1回晶子入門講座 講師：田口道昭 日時：令和4年9月17日(土)
テーマ：『恋衣』を読む

■第2回晶子入門講座 講師：檀原みずす 日時：令和4年10月30日(日)
テーマ：『明星』を輝かせた与謝野鉄幹・晶子「メンター」としての森鷗外

■第3回晶子入門講座 講師：勺禰子 日時：令和4年11月20日(日)
テーマ：今こそ読みたい晶子の評論「戦争・出産・感染症」

参加者の声

講座『恋衣』を読む

梅本 博寛

合同歌集について各人の短歌を選出し、解説をして下さいました。与謝野晶子の熟達と幅広い詠み、山川登美子の女性感満杯、増田雅子の情緒と私は感じました。更に古代からの歌と比較、歴史的な関連など広い視界への案内をしていただきました。

晶子入門講座へ参加しての感想

竹本 俊一(全3回参加者)

初心者の私にとって、示唆に富む3回の講座でした。「恋衣」で若き日の晶子の感性を味わい又機関紙「明星」の文学史的な意義、更に晶子の社会評論も教授頂き、晶子の人となり又現在に通ずる晶子を実感できる講座でした。

短歌を楽しむセミナー

会場・さかい利晶の杜

実際に短歌作りをしながら、楽しく短歌の世界を学ぶ、小西美根子講師による全4回(9〜12月)連続講座です。

参加者の声

堀畑 孝子

私の母は50代から「家族史」作りにと短歌を始めました。小さな幸せを見逃さず力強く生きる母の視線が短い文章からあらわれるのが不思議でした。
私も50代になったのをきっかけに短歌を楽しむセミナーに応募しました。小西美根子先生の講義を受け実際に短歌を作ります。受講生作の短歌の鑑賞は和気藹々と楽しいひと時です。又先生が推敲してくださると短歌の良さがより際立ちとても勉強になります。難しそうに思われがちな短歌作りですが、一人一派と励ましてくださる小西先生に導いていただきのびのびと短歌作りを続けています。

投稿のコーナー

ひとりごと・・・

堺市 和田 武子

泉陽高校を卒業して、コロナ禍で室にとこもり、気がつけば90歳！何と早い人生！あの世の方が近い事に気づく毎日、絵をかいて暮らしています。

1932年(昭和7年)大阪府生まれ。1954年パリのオートクチュール・デザイナーのジャック・ファト、ジャン・デセルにより大賞を受け服飾界に進み、大阪万博にてカメラのコンパニオンのコスチュームデザイン、帝人のカンカン・ドレス等を手がけました。以後、心斎橋デザイン画教室、コワーク意匠室のデザイナー、「武」ブランドの店をオープン。1999年大阪郵便局より年賀ハガキ「舞洲より生駒山望む」を描き、その年にMBSギャラリにて個展を開催、日本画の世界展・京都櫻楓会展・国際京美会個点にも出品。毎年、堺出身の与謝野晶子のフォーラムに出展し晶子の顔を追求め続けています。丸善ギャラリにて個展開催、独自の動く日本画とともに女の顔を描き続け、飽くなき好奇心で女の顔というテーマを追求し、和紙に化粧を続ける事をライフワークとして活動しています。世界芸術家辞典に、ピカソやマティスと一緒に晶子さんの絵と共に載ったことはあの世に行っても残ること。晶子さんの堺女学校の最後の後輩としてうれしいことかな…。



中山泉庵の晶子への歌

大阪市 宮本 正章

晶子様には

黒髪の乱れし時ゆ鏡にて物思ふ人はかくやとぞ見む

泉庵

私は今、自分の本来の目的である医学修業を枚擲して、詩歌の世界に感溺しています。私が医師になるのをひたすら待っている美作の老父が哀れで、鏡に写した自分の顔を見つづ泣いています。晶子様、貴方も懊悩のあまり黒髪がはらはらと乱れるような折は、手鏡を見つづ慟哭されることでしょうか。こんな意か。この歌が詠まれた頃の晶子の悩みは鉄幹への思慕ではなかったのだろう。彼への愛情が燃え立ったのは、河野鉄南へ「むかしの兄様さらば」(明治33年9月30日書簡)の頃であり、この歌が『よしあし草』に発表された明治33年1月頃は、煮えきらぬ鉄南への思いに苦しむ頃であったと思う。この作品には泉庵に秘めたる恋がうかがえる。

『白桜忌』の着実な歩み

吹田市 川内 通生

昭和57年に『白桜忌』を発足させた、我々の発起人会には与謝野晶子の高名な研究家、学者、大学教授、芸術家、郷土史家等、錚々たるメンバーが名を連ねていた。覚応寺での忌当日には、毎回、記念講演を担当することとなり、その後、回を重ねては、各地の晶子関係の研究家諸氏が講師をつとめ、マス・メディアにも注目されることとなり、毎回、多くの参列者の参加が実現できていったのは、まさに喜ばしいことであったと言える。

そんな中、唯一、研究家でも学者でもない、いわば一晶子ファンに過ぎない、この私が、発起人会の席上で諸氏から講師に推されたのは、まさに青天の霹靂であった。自分の拙い立場をわきまえ、当然、固辞した私であったが、蔭で、あの河野正伸住職のお優しいことばにも接し、結局は、昭和59年の第3回『白桜忌』の席上、「晶子と若き世代」と題しての拙講を呈させていただいた。「アイデンティティ」というものを中心とする意識のもと、白桜院鳳翔晶耀大姉の御遺影を斜め右に仰ぐ位置で講じた。千里高卒業生が多数来聴してくれていた。平成に入ってから、第16回『白桜忌』への出講については、後述の機会を待ちたい。

「ジャーナリスト与謝野晶子」について

堺市 松永 直子

与謝野晶子の活躍ぶりをジャーナリストとしての視点から洞察しています。晶子の姿がさまざまに角度から語られ、知られざる一面も窺うことができます。著者は元新聞記者で歌人の松村由利子さん。会員必読の書です。



さかい利晶の杜ニユース

企画展

「与謝野晶子の温泉紀行」

令和4年11月12日(土)〜令和5年1月15日(日)

与謝野



晶子は、夫である寛とともに、多くの旅をしました。その旅には、「温泉」が伴うことが多くありました。作品のたぬ温泉宿に長逗留した同時

代の文豪たちとは異なり、出張旅のうえ、深夜に及ぶ文筆活動の前のあわただしい入浴でしたが、日常の家事などから解放されて疲れを癒す貴重な時間でした。心身ともにリフレッシュした晶子の感性は多くの秀歌を生み出しました。

われわれの社会と生活は、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行で打撃を受け、その影響は今も続いています。先人たちは、温泉でこころとからだの重荷を降ろし、新たな前進を遂げました。

晶子が訪れた温泉を知り、いつか訪れることで、われわれが新型コロナウィルス感染症で背負った重荷から解放されることを願い、本展を企画しました。

一二月四日(日)には、太田登与謝野晶子倶楽部会長(天理大学名誉教授)から、晶子没後八〇年「夫寛と訪れた晶子の温泉の旅と歌」と題して記念講演をいただきました。この企画展は、令和四年度堺市博物館・与謝野晶子倶楽部共同調査研究会の成果を反映しています。(矢内一磨)

「晶子のことば」 ―自分らしく生きるということ― ファッションショー&トークショー

令和4年6月12日(日)

女性の生き方を説いた与謝野晶子さん。その示唆に富んだ言葉は、100年余りたった今も女性のみなならず自分らしく生きる人々のための道標になります。ダイバーシティ&インクルージョンをテーマにLGBTQ当事者やALLY*によるファッションショーとトークショーを開催しました。ショーでは、上田安子服飾専門学校の学生が制作した真っ白な衣装に、彼らが選んだ晶子の言葉が映し出され、ピアノ演奏や朗読も交えたファッションショーに、多くの観客が魅了されました。

企画協力：関西ライモ実行委員会
MAYA JAPAN

*当事者を認めている人たちのこと

